

施設入所者数、施設定員数について

1 国の基本指針（第7期障害福祉計画（令和6～8年度）における目標値）

令和8年度末の施設入所者数を、令和4年度末時点の施設入所者数から5%以上削減することを基本とする。

2 入所者数、施設定員数の推移

(1) 計画における施設入所者数

	第4期 (H27～H29)	第5期 (H30～R2)	第6期 (R3～R5)	第7期 (R6～R8)
国基本指針	▲4.0% (H25末～ H29末の4年間)	▲2.0% (H28末～ R2末の4年間)	▲1.6% (R元末～ R5末の4年間)	▲5.0% (R4末～ R8末の4年間)
県計画	▲0.0% (同上)	▲0.0% (同上)	▲0.0% (同上)	
県実績	▲2.2% (H25 2,337人→ H29 2,286人)	▲2.4% (H28 2,292人→ R2 2,238人)	※R4現在 ▲0.8% (R1 2,227人→ R4 2,209人)	

(2) 定員数と入所者数

各年度末の状況 ※R5は4月（単位：人）

	第4期		第5期			第6期		
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5※
県計画定員数	2,361		2,341			2,339		
実際の定員数	2,341		2,339		2,334	2,319		2,304
入所者数	2,292	2,286	2,272	2,227	2,238	2,215	2,209	
空き人数	49	55	67	112	96	104	110	

3 入所希望待機者の状況

(単位：人)

	第4期 策定時	第5期 策定時	第6期 策定時	第7期 策定時
計画期間中	198	193	190	175
今すぐ	113	137	123	104
3年以内	85	56	67	71
時期未定	259	436	310	298
合計	457	629	500	473

4 現状分析

(1) 計画における施設入所者数について

- ①国基本指針においては、第7期計画における入所者数の削減率は5%以上であり、第6期計画の1.6%以上から削減率が大幅に増えている。
- ②県計画においては、第4期から第6期まで削減率は0%としているが、実際の入所者数は減少している。

(2) 定員数と入所者数について

- ①第4期から第6期のいずれの期間においても、県計画定員数よりも実際の定員数は少なくなっている。
- ②実際の定員数は減少しているが、入所者数も減少しており、空き人数は増加傾向にある。

(3) 入所希望待機者の状況について

- ①第7期計画期間中の入所希望待機者は175人であり、第6期時の190人から減少している。
- ②入所施設に空きがある一方、入所希望待機者もいるというミスマッチが起きているのは、特定の施設に入所希望者が集中しているためである。

○主な特徴

- ・ 恵那地域、飛騨地域の施設は希望者が多い。
 - ・ 市街地から離れた地域（山県市山間部、大垣市山間部等）の施設は希望者が少ない。
 - ・ 建物が古い施設は希望者が少ない。身体施設は特に顕著である。
- ③障がい者のニーズ調査では、重度の障がい者の43%が3年後に入所施設が必要、52%が親亡き後に必要との回答であった。